

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第2部門第1区分

【発行日】平成22年10月21日(2010.10.21)

【公開番号】特開2008-105016(P2008-105016A)

【公開日】平成20年5月8日(2008.5.8)

【年通号数】公開・登録公報2008-018

【出願番号】特願2007-233668(P2007-233668)

【国際特許分類】

B 01 D 71/34 (2006.01)

B 01 D 69/08 (2006.01)

D 01 F 6/04 (2006.01)

D 01 F 6/12 (2006.01)

【F I】

B 01 D 71/34

B 01 D 69/08

D 01 F 6/04 C

D 01 F 6/12 Z

【手続補正書】

【提出日】平成22年9月3日(2010.9.3)

【手続補正1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項1】

熱誘起相分離法あるいは非溶媒誘起相分離法により製造された、ポリフッ化ビニリデン系樹脂からなる中空糸膜を、該中空糸膜の融点をTmとしたとき、Tm - 40 T < Tmを満たす温度Tで熱処理することを特徴とするポリフッ化ビニリデン系樹脂からなる中空糸膜の製造方法。

【請求項2】

前記熱処理時の中空糸膜の長さ方向の収縮率を5%以上25%以下とする請求項1に記載の中空糸膜の製造方法。

【手続補正2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】発明の名称

【補正方法】変更

【補正の内容】

【発明の名称】中空糸膜の製造方法

【手続補正3】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0009

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0009】

上記課題を解決するための本発明は、

(1) 热誘起相分離法あるいは非溶媒誘起相分離法により製造された、ポリフッ化ビニリデン系樹脂からなる中空糸膜を、該中空糸膜の融点をTmとしたときTm - 40 T

$< T_m$ を満たす温度 T で熱処理することを特徴とするポリフッ化ビニリデン系樹脂からなる中空糸膜の製造方法。

(2) 前記熱処理時の中空糸膜の長さ方向の収縮率を 5 % 以上 25 % 以下とする (1) に記載の中空糸膜の製造方法。

により構成される。

【手続補正4】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0047

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0047】

(実施例5)

延伸後の中空糸膜を、無緊張状態で、熱風により雰囲気を 160 にした乾熱雰囲気中に静置させて、長さ方向に収縮率 18 % で収縮させた以外は実施例2と同様にした。得られた中空糸膜の性能を表1に示す。

【手続補正5】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0048

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0048】

(実施例6)

延伸後の中空糸膜を、無緊張状態で、熱風により雰囲気を 140 にした乾熱雰囲気中に静置させて、長さ方向に収縮率 17 % で収縮させた以外は実施例2と同様にした。得られた中空糸膜の性能を表1に示す。